

福知委員（民主県政会）

令和8年3月12日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）不登校や長期欠席児童への学びの機会提供について

公教育の役割は不登校や長期欠席の児童生徒にも学びの機会を提供し学力を身につけさせることであり、定員内不合格などにより進路未決定となる生徒を出さないことだと考えるが、まず、不登校や長期欠席となっている児童生徒の状況に対する認識について、教育長に伺う。

また、不登校等により小中学校で十分な学力を身につけさせられていないことが、進路未決定の一因となっていることへの受け止めと、今後どのように対応していくのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

県内の小中学校の長期欠席のうち不登校を理由とする児童生徒数は、増加傾向が続いており、厳しい状況にあるものと認識をしております。

また、進路未決定となる生徒の中には、中学校時に不登校であった生徒も多く、全ての生徒が希望する進路に進んでいけるよう、学力の向上を含め、社会的自立に向けて必要な力を育てていく必要があると考えております。

このため、学びにアクセスできない児童生徒ゼロを目指し、スペシャルサポートルームの設置・充実に加え、オンラインを活用した学習プログラムの充実、市町の教育支援センター等とのネットワークの構築など、不登校支援の拡充を図り、児童生徒が希望する進路を実現できるよう、支援の充実に取り組んでまいります。